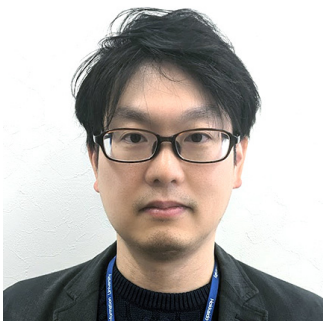


IT戦略とマネジメントの基礎 -IT人材の基礎知識とビジネス活用-

単位数		ナンバリングコード	
2		DIF227	
	教員名	小野 良太	
	専門	サービス工学、複雑系工学、観光情報学	
	出身校等	北海道大学大学院 情報科学研究科博士後期課程修了，博士（情報科学）	
	現職	北海道情報大学 経営情報学部 講師	
授業形態			
前期印刷授業・後期印刷授業			
授業範囲		試験範囲	
教科書の内容全て		授業範囲すべて	
		【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただしWebページ（通信教育部POLITEを除く）と生成系AIの参照は不可とする。	
科目の概要			
本講義は基本情報技術者試験（午前問題）・IT パスポート試験の、ストラテジ系・マネジメント系の範囲を学修する内容である。 それらの知識は決して資格取得のための机上のものではなく、実務において必要とされる知識も多数存在する。本講義では、IT技術者として必要とされる企業活動と法務、経営戦略、システム戦略などのストラテジに関する知識、および、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントなどのマネジメントに関する知識を幅広く学ぶ。			
授業における学修の到達目標			
教科書の内容を通して基本情報技術者試験（午前問題）・IT パスポート試験の、ストラテジ系・マネジメント系の範囲について試験合格に必要なとなる水準の知識を身につける。			
講義の方針・計画			
各回に対応する小テストを通信教育部POLITEにて準備している。評価対象ではないが、レポート課題および期末テストはそれらの問題を中心に出题するため、各回の学習の終わりにしっかりと受験すること。また、本講義で用いる通信教育部POLITEの問題は基本的にITパスポート試験および基本情報技術者試験の過去問から出题している。過去問の出题範囲の都合上、過去問が少なく複数回でまとめて1つの小テストを行っている単元もあるため、その場合は該当範囲の学習が終わってからまとめて受験すること。 第1回：（教科書第1部）企業と法務：企業活動(第1章)、企業会計(第2章) 第2回：（教科書第1部）企業と法務：経営科学（第3章3-2「OR」まで） 第3回：（教科書第1部）企業と法務：経営科学（第3章3-3「IE分析手法」以降） 第4回：（教科書第1部）企業と法務：法務と標準化（第4章） 第5回：（教科書第2部）経営戦略：経営戦略マネジメント（第1章）、企業戦略マネジメント(第2章) 第6回：（教科書第2部）経営戦略：ビジネスインダストリ（第3章） 第7回：（教科書第3部）情報システム戦略			

講義の方針・計画
第8回：(教科書第4部) 開発技術：システム開発技術（第1章） 第9回：(教科書第4部) 開発技術：ソフトウェア開発技術（第2章） 第10回：(教科書第4部) 開発技術：システム開発環境（第3章）、Webアプリケーション開発（第4章） 第11回：(教科書第5部) プロジェクトマネジメント(2-5「プロジェクトの時間」まで) 第12回：(教科書第5部) プロジェクトマネジメント(2-6「プロジェクトのコスト」以降最後まで) 第13回：(教科書第6部) サービスマネジメント 第14回：(教科書第7部) システム監査と内部統制：システム監査（第1章） 第15回：(教科書第7部) システム監査と内部統制：内部統制（第2章）
準備学習
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
成績評価の方法およびその基準
Moodle（通信教育部POLITE）内の試験：100%
教科書
書 名：IT 戦略とマネジメント 著者名：株式会社インフォテック・サーブ 発行所：株式会社インフォテック・サーブ ISBN：(この書籍にISBNはございません)
参考書
なし
その他
なし
試験期間
シラバス検索画面トップページ（ https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/ ）下部の「2025学年暦」を参照
学習プリント
あり
教職科目
関連受講科目
なし
担当教員の実務経験
2015年から2024年までAI開発を行うベンチャー企業に所属し、ディープラーニングを用いた画像認識、自然言語処理、数値予測エンジンなどの開発を行い、企業における実際の業務システムへの導入支援や保守運用なども行ってきた。また2015年と2016年に北海道科学大学で基本情報処理者試験の対策となる講義を実施してきた。 情報処理技術者試験の準備となる教育を実施するとともに、実際のシステム開発実施の観点から学習内容がどのように活用されるか講義にて伝えていく。